



# 羽後町の紹介

人口 15,319 人

単独立町を選択

高齢化率 35.15%

(平成27年国勢調査より)



# • 観光資源



日本三大盆踊り西馬音内盆踊り  
(国指定重要無形民俗文化財)



嫁こいパレード  
(昭和63年)



- 秋田県内で現存する最も古い民家
- 第1回全国鈴木サミットの開催地

- 豊富な資源（農産物）



東京の大田市場で最も高い値がつく

“日本最高級のきゅうり”

（7月20日放送『ザ!鉄腕!DASH!!』で紹介）

第10回全国和牛能力共進会2位の種雄牛「義平福」の誕生地



100%ハウス栽培のオクラ

（露地に比べ大きくて軟らかい）

県内シェアトップ



- 豊富な資源（美少女商品）



Moe1グランプリ ※平成24年10月東京にて開催  
お土産部門 **初代グランプリ受賞**  
(特産品開発や地元との交流等特に優れた  
取り組みを行っているJAうごが受賞)



美少女関連商品、“**経済効果1億円**”  
(2009年放送『クローズアップ現代』)

# 「道の駅」オープン！！



# 町民とつくりあげた内部



# 結構流行ってます！



## 道の駅うご 来場50万人

### 目標20万、大幅に上回る

昨年7月に本格オープンした羽後町の「道の駅うご」は、端縫いの郷の「道の駅」の累計利用者数が16日、開業から約1年9か月で100万人に達した。現地で記念レモニーが行われ、100万人目となった鳥鹿市のホテル長井荘に、羽後町を代表する農産物のホタル長井荘に、山内の山内中閉校式

昨年7月に本格オープンした羽後町の「道の駅うご」は、端縫いの郷の「道の駅」の累計利用者数が29日、50万人を突破した。現地で記念レモニーが行われ、50万人目となった秋田市の佐藤舞子さん(23)に記念品が贈られた。

佐藤さんは新潟県内の大学を今年卒業し、4月から出身地の秋田市での就職が決まっている。20日市内に住む祖父の家の家を訪れ、道の駅でほろを食べて採場した。レモニーで、道の駅の小坂圭助駅長が「これからも町を盛り上げていく」と話した。

このほかに、前校長として、町出身の調理師佐々木芳江さん(36)に大仙市と、地元の小坂圭助駅長が「これからも町を盛り上げていく」と話した。

道の駅は直売所の品を強化を図り、2017年9月に達成。現在2億4千万円に迫っている。

道の駅は直売所の品を強化を図り、2017年9月に達成。現在2億4千万円に迫っている。

記念品がプレゼントされた。

道の駅うごは、農産物や加工品の直売所、レストラン、カフェ、観光案内所を備えている。初年度の目標利用者数は20万人だった。目標を上回って掲げた1億2千万円は昨年9月に達成。現在2億4千万円に迫っている。

記念品がプレゼントされた。

道の駅うごは、農産物や加工品の直売所、レストラン、カフェ、観光案内所を備えている。初年度の目標利用者数は20万人だった。目標を上回って掲げた1億2千万円は昨年9月に達成。現在2億4千万円に迫っている。

50万人入場はH29年3月、オープン後9カ月で達成。

100万人目はH29年12月で50万人達成後9カ月で達成。

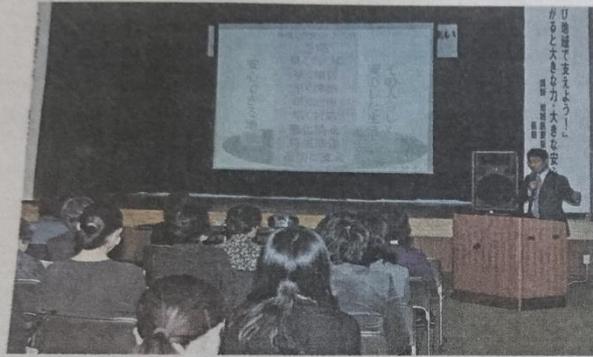
# 県南

大曲支局  
☎ 0187-63-0163  
FAX 0187-63-0056

角館支局  
☎ 0187-54-2345  
FAX 0187-54-1445

横手支局  
☎ 0182-32-2345  
FAX 0182-33-3059

湯沢支局  
☎ 0183-73-2187  
FAX 0183-73-3866



## 認知症、地域で支援

サポーター、キャラバンメイト50人参加

羽後町 講演通じ理解深める

羽後町で21日、「町キャラバンメイトの集い」が開かれた。認知症サポーターやキャラバンメイトら約50人が参加し、講演を通じて認知症の理解を深めた。町地域包括支援センターの主催。

厚生労働省は2005年度から、認知症サポーターとキャラバンメイトの養成をスタート。サポーターは地域の認知症の人やその家族を支援、キャラバンメイトは認知症の基礎知識を学び、各市町村などが設置する地域包括支援センターと連携してサポーターンティア。

集いでは、社団法人「地域医療振興協会」(東京)の医師・八森淳さんが「認知症を学び地域で支えよう」と題して講演。

八森さんは「85歳以上の4八森さんが講演した「キャラバンメイトの集い」

人に1人は認知症。決して「人事ではない」とし、「がつなかりを持って認知人やその家族を支援、医療機関などに情報を伝えることが大切」と指摘した。

同町のメイトとサポーターは計942人。八森さんは後町ではたくさんの人育っている。今後は、働いている世代などにも活動えていくことが必要」と

### 大仙市の特養ホーム 中学生が演奏披露 秋祭りで交流

大仙市内小友の特別養護老人ホームで、大仙市立小友中学校の吹奏楽部が演奏披露した。

うが当 れでな手携がにれ口日に



羽後町認知症にやさしいネットワーク形成事業 H20～  
認知症地域支援体制構築等推進事業モデル地域 H22～  
認知症地域支援推進員 H28～

## 認知症予防

- 若竹元気くらぶ H20～
- うご脳若返り教室 H22～

## 早期発見・早期治療

- ファイブ・コグ検査 H20～
- もの忘れチェック機器 H21～
- 早期の段階から診断・相談・対応へ

## 悪化防止

- 学習療法 H22～
- 認知症ケアに関する研修会の実施 H21～

## 適切な 支え

- 家族介護者教室やケアスタッフ研修など  
在宅の介護を支えるための研修 H18～
- キャラバン・ラジオ屋など地域の力・支える  
力の強化(うごまちよりそいネットワー  
ク模擬訓練、サロン活動など) H22～
- 連携調整支援機関としての地域包括支  
援センター
- 多職種連携専門職チームの養成(H28  
は認知症ライフサポート研修)

## 認知症の 理解

- キャラバン・メイト養成研修 H21～
- 認知症サポーター養成研修 H20～
- 地域資源マップ作成・配布 H22～
- 当事者も参加する活動への支援
- 認知症カフェでゆるやかな学びの場の提  
供 H28～

# 今回の羽後町の報告は・・・

## 地域で支え合うしくみづくり ～認知症サポーター・キャラバン・メイトのチカラ～



# 認知症サポーター養成講座開催状況

3名の地域包括支援センター職員が、キャラバン・メイトとして平成20年度春から活動スタートさせる。



民生児童委員、教育委員会、社会福祉協議会、JA女性部、老人クラブの総会にて認知症サポーター養成講座開催への協力を呼びかける。

# 認知症サポーター養成講座開催状況

なじみの関係機関へのPRにより、認知症サポーターが養成できたが・・・1年で先細り感あり。



平成21年度から「キャラバン・メイト養成をわが町で！」

福祉関係者、民生児童委員、商工会、学校、消防、銀行、JA、タクシー、警察、郵便局など多方面の機関を対象にキャラバン・メイト養成を行う。

結果、メイトを窓口としてさまざまな団体にサポーター養成講座を開催可能となる

# 主な認知症サポーター団体

- タクシー会社
- 西馬音内商店会(約50店舗)
- 理美容協会
- 高校・中学校・小学校

# うごまちキャラバン・メイト認知症 サポーター協会（住民団体）ができるまで

平成20年3月  
横浜市視察

- 住民キャラバン・メイト
- ファイブ・コグ検査

平成20年度  
認知症サ  
ポーター養  
成講座を関  
係機関に実  
施

平成21年6月  
キャラバン・メ  
イトを養成  
同10月 住民  
メイトのつど  
いを開催

平成22年  
12月に協  
会設立へ

# キャラバン・メイトのつどいを かさねてきました



# 平成22年10月20日 キャラバン・メイトのつどい

## ・ 住民メイト 報告 抜粋

メイトやサポーター同士を結び付ける場所があるといいと思った。産直ふれあい市場で認知症について啓発活動をし、チャリティバザーを若竹元気クラブのみなさんとやってきた。その市場がなくなるということで、西馬音内商店街で空き店舗はないか、・・・とさがした。

ついにその場所もみつかった。近日運営委員会をひらき、メイトやサポーター協会を設立したい。



「認知症の高齢者を見守ることは、町そのものを優しくつくりかえることだ」

うごまちキャラバン・メイト認知症サポーター協会前会長  
佐藤美智子さん

「言わないこと」を「知らないこと」にしてしまうと町は変わらない。

たとえば、お年寄りには荷物が重くても「重い」とは言わないことが多いんです。

そんなとき、言わなくても手を貸す気遣いをもてば、町は変わっていくはずです。

※家の光 東日本版 2014. 10月号  
認知症ルポ 「一人一人が手を差し伸べる町」より

# 羽後町の高齢者への支援

- 「安心・安全な街づくりパトロール隊」の創設
- 地域包括支援センターとの連携
- 行政の事業としてやることによって持続可能なものに

# 安心・安全な街づくりパトロール隊

(2011・12・6 NHK)

## ■ 地域のコミュニティーはどう関わっているのか

2009年から秋田県羽後町には、「安心・安全な街づくりパトロール隊」という高齢者世帯を回るパトロール隊がある。生活や健康状態を見守り支援している。いざという時のお助けグッズを救急隊が分かるように各家庭の冷蔵庫の扉の中にいれることにした。これらは「認知症にやさしい街づくり」となっている。

このパトロール隊は、高齢者がいる世帯の8割近く、およそ600世帯を回っている。「できるだけ、今まで住んでいたところで生活が続けられるように、そのために大変なところを一緒に悩んだり、それから話をお互いにすることによって、孤立感とか孤独感とかをなくせればいいのかな、ということをやっています。」

と隊長はいう。

高齢化率全国一位の秋田県。羽後町では地域住民と行政が連携することで、様々な制度を重ねた独自の取り組みをしている。



# 一人暮らし認知症高齢者への支援

- Kさん:69歳女性、要介護1、猫と一緒に長年  
住み慣れた家で生活したいという希望がある
- パトロール隊の関わり
- サービス提供事業者の関わり
- 地域包括支援センターの関わり
- ご近所の関わり

## 住民キャラバン・メイト主催の SOS見守りネットワーク模擬訓練

- 平成25年度のうごまちキャラバン・メイト認知症サポーター協会総会にて今年度の新規事業として挙げられる。
- 協力機関として  
羽後町、羽後町地域包括支援センター、社会福祉協議会、町教育委員会、警察・消防機関に依頼あり。

# うごまちSOSよりそいネットワーク ワーク模擬訓練（平成25年度～）



# 訓練の様子



# 新しい動きも！



# 家族介護者教室に 「参加しづらい」、の声に

家族介護経験者、キャラバン・メイト、認知症の人の家族会秋田県支部会長などを講師に、現在家族介護を行っている住民を対象とし、年1回実施。

「介護しなければならないので行きたくても参加できない！」の声に応じて、「短期入所利用できる家族介護者教室」を平成27年度から特別養護老人ホームの協力を得て企画。

キャラバン火曜サロン(認知症カフェ)への本人、家族の参加のきっかけづくりとして、昨年から協会との共同開催も実施。

# 羽後町の認知症カフェ

## その1

- 住民キャラバン・メイトが平成21年1月から商店街のまんなかに空き店舗を協会会員の力でリノベーション。「キャラバンラジオ屋」という交流スペースへ。
- 軽度の認知症の人もお茶出し当番やバザーのスタッフとしての役割がある
- 買い物帰りの地域の人や商店会、医療・福祉の専門職や行政が参加・交流している
- 総合相談では家族が、近所のひとが普段の心配ごと、不安などをはなす
- 地域の住民に認知症のことや認知症ケアについて知る研修会を開催

それってもう、  
すでに認知症カフェ！？

# 羽後町の認知症カフェ その1



それってもう、  
すでに認知症カフェ！？

# 羽後町の認知症カフェ

## その2

- 認知症予防活動グループ若竹元気くらぶが  
仙台市「土曜の音楽カフェ」を視察
- 「自分たちも認知症カフェの活動に参加したい」という会員の声が・・・
- 以前から、若竹元気くらぶの会員のひとは老舗の  
食堂を経営。病院帰りの高齢者にお茶をだし、そこ  
は、楽しい「お休み処」
- 町立病院の近くの食堂・・・

医療・福祉の専門職ゲ  
ストのとのランチとざっ  
くばらんな話・・・！？

# 羽後町の認知症カフェ その2



# 羽後町の認知症カフェ その2からその3へ

- 認知症予防活動グループ若竹元気くらぶがおさんぽオレンジかふえの場で朝日新聞の新聞記者のミニ講演を焼肉丼をほおぼりながら聞いていたら・・・  
「高齢者の運転免許返納ってつらい話よね」という話題が。  
電車がない町 羽後町 バスは一時間に1本・・・
- コミュニティバスの案も現在検討中ですが、「生活の足である車をそう簡単にあきらめられないのです！」

自動車学校に気軽に運転の練習  
とかできるのか聞いてきますね  
～(推進員イトウ)

# 羽後町の認知症カフェ

## その3

「うごまちハッピー運転教室&Dカフェ」を  
羽後自動車学校と共同企画

- 羽後町では、車の運転する力を維持することは  
「生活の足を守る」こと  
認知機能や運転能力に不安を抱えながら  
更新期間を待つみなさんに  
「生活の足を守るための備え型の支援」として  
「うごまちハッピー運転教室 & Dカフェ」を提案

# 「うごまちハッピー運転教室&Dカフェ」の 主な内容

## Dカフェ タイム

- コーヒーを飲みながら、まずは「視力検査」と「もの忘れチェック」そして認知症を知る時間
- 高齢者の運転特性について学ぶ時間



## 実車訓練

- 教習所内のコースを使用し、**実際に運転**。(指導員からの客観的な評価、助言)



# 羽後町の認知症カフェ

## その3 「うごまちハッピー運転教室&Dカフェ」



# うごくまち 羽後町！！

これからも

地域のみなさまと共に歩んでいきます

それぞれの持ち味を生かして

それぞれの世代の強みを生かして

「 うごくまち 羽後町！ 」



ご静聴ありがとうございました。